

京都教区時報

<https://www.kyoto-catholic.net/>

カトリック京都司教区
 広報委員会
 京都市中京区
 河原町通三条上る
 TEL 075-211-3025
 FAX 075-211-3041
 honbu@kyoto.catholic.jp

大塚司教様は司教年頭書簡で、聖年のテーマである「希望」を何処で誰と分かち合うかのヒントとして、現代社会の多様な課題を示されています。17項「多国籍信徒で築く次世代の教会」では、小教区が外国籍信徒を含む「多様なリーダーシップが発揮される共同体へと発展させていくことを」促されています。

戦前の日本は、アジア・太平洋地域に武力で侵略・支配をしました。多くの日本の宗教団体はこの侵略・支配に積極的に協力しましたが、日本のカトリック教会もその一つでした。1942年1月に日本軍はフィリピンのマニラを占領しましたが、司祭・神学生・信徒からなる宗教部隊カトリック班も同行していました。日本軍はカトリック班を積極的に活用し、フィリピン人を懐柔し、日本軍に抵抗しないようにしました。カトリック班は、日本軍の正当性を宣伝し、フィリピン教会を日本の教会の傘下に置きました。当時のカトリックの機関誌は、日本のカトリック教会は「皇軍の広域占領によってその領域内に一挙に三千万のカトリック信徒を」持ったと高揚感のある文章を掲載しています。これらの

第6回 多国籍信徒の共同体を目指して

2025年 司教年頭書簡
 すべての人と
 希望の巡礼者となろう
 を受けて



日本がおこなった侵略・支配、日本のカトリック教会の行動について、白柳大司教様は、1986年9月21日の第4回アジア司教協議会連盟総会のミサの説教で「神とアジア・太平洋地域の兄弟たちに救いを願い、反省と謝罪を述べています。

現在、小教区の主日のミサには、日本以外のアジア諸国の信徒がたくさん来られています。彼らが少数であれば、挨拶程度の付き合いはありますが、小教区を中心になるのは稀なことです。また彼らがグループになると、異なる言語・習慣があるために別の共同体が形成されます。大塚司教様が促されているように、次世代の日本のカトリック教会は、多国籍信徒によって「多様なリーダーシップが発揮される」真の共同体を目指さなければならぬと思います。

社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会
 地域福祉センター希望の家 施設長 前川 修

※白柳大司教の説教は
 下記のQRコードより
 中央協議会HPで読めます。



ナン神父司式によるフィリピン
 コミュニティーのクリスマスミサ
 (2024年12月22日希望の家)



京都チェジュ姉妹教区交流20周年

2005. 6—2025. 6

京都教区とチェジュ教区は、2005年6月7日に姉妹教区の縁組をし、司祭・神学生・信徒間の交流を行っています。今年の6月、交流20周年を迎えました。

それを記念して、6月8日@聖霊降臨の主日、チェジュ教区から、ムン・チャンウ司教さまと5人の神父さま方、女性会代表の方々、そして少年少女の聖歌隊をお迎えして、京都教区カテドラル河原町教会において感謝ミサが捧げられました。多くの京都教区の信徒もミサに参列してください、チェジュの皆さま方の明るいお人柄と、聖歌隊の清らかな歌声も相まって、素晴らしい心温まる感謝ミサとなりました。

今後ますます両教区のきずなが深まりますよう、皆さまのお祈りとご協力をお願いいたします。

京都チェジュ姉妹教区交流の祈り

主よ、私たち京都教区とチェジュ教区が、姉妹教区縁組を通して、韓国と日本の歴史と文化の相互理解を深め、両国を始め、アジアと世界の平和のために奉仕することができますように。





活 用 記 2025-018
New Print N 332820

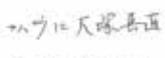
京都チェジュ姉妹教区 交流20周年

わたしたち、京都教区とチェジュ教区は、神の働きと豊かな恵みにより、2005年6月7日に結ばれた姉妹教区の時を、この20年間で深めてまいりました。

この記念すべき節目にあたり、両教区の信徒と司祭は、主イエス・キリストに結ばれた福音宣教の仲間として、初代教会から受け継がれた神の民としての交わりをさらに深めることを共に誓います。

わたしたちは、この時を新たな世代へ引き継ぐ福音の使命を胸に記し、日本と韓国、さらには世界の平和のために奉仕し続けることを目指します。

チェジュ教区と京都教区の姉妹縁組が、今後も神の祝福のもとでさらに発展していくことを願います。

<p>チェジュ教区</p>  <p>司教 + ビオ ムン・チャンウ</p>	<p>京都教区</p>  <p>+ハヅヒ=天塚長正 司教 + ハヅヒ=天塚長正</p>
--	--

2025年6月8日 聖年の聖霊降臨の主日に
京都カテドラル 河原町教会聖堂にて

京都・チェジュ姉妹教区20周年ミサ
チェジュ教区 ムン司教様のご挨拶

皆様、お会いできて嬉しいです。

ヨハネによる福音書の17章21節のみ言葉の一部です。「すべての人を一つにしてください」。

親愛なる京都教区の兄弟姉妹の皆様、そしてこの場に参列して下さったすべての方々の上に、主の平和と神様の祝福が豊かにありますようにお祈りいたします。



20年前、京都教区と私たちチェジュ教区は、主の愛を生きていく教区としての出会いを一緒に始め、神父さんの派遣と信者さん達の交流による様々な努力をしてきました。

今日、私たちはチェジュ教区と京都教区が、信仰の兄弟姉妹として共に歩んできた20年の時間を振り返り、神様に感謝と喜びの心でこの場に立っています。神様のお恵みの中で始まったこの交流は、ただの訪問やイベントにとどまらず、深い信頼と友情、そして福音の中で一致した平和のパートナーの関係です。両教区が結んだ連帯は、歴史の痛みを超える癒しと和解の証でもありました。何よりも

過去の傷を信仰の勇氣として抱え込み、お互いの文化を深く尊重する中で、共に祈り奉仕する姿は、今の時代に本当に必要な福音的な模範でした。

特に、信者さん達、神学生、青少年の交流における相互協力は、両教区の共同体が成長するための大切な基礎となりました。このような交流を通して、私たちは、ただ二つの地域の教会間の友情を超えて、日韓両国の和解とアジアの平和のための神様の道具として呼ばれたということ、より深く自覚するようになりました。

これから、私たちは新たな20年に向けて一緒に進まなければなりません。その道には平和を脅かす様々な課題がありますが、両教区が共に築いてきた信頼と信仰の遺産は希望の灯となってくれますように。

もう一度、京都教区の教区長である大塚喜直司教様をはじめ、京都教区の皆さんのおもてなしと愛に深い感謝を申し上げます。



チェジュ中央カテドラル



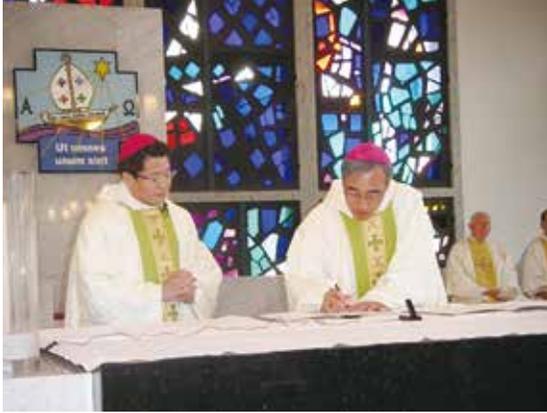
ムン・チャンウ司教さまのご挨拶を通訳して下さったキム・テジュン神父さま 左
2013年から2020年まで8年間、京都教区で司牧していただきました

げ、この貴重な親交の上に神様の恩寵がより豊かに降り注ぐことをお祈りいたします。ありがとうございます。

京都・チェジュ教区交流20年の実り
カトリック京都司教 卍パウロ大塚喜直

1. 神の民の交流

2005年6月7日、河原町教会司教座聖堂にて、ペトロカン・ウイル司教様(当時)をお迎えし、京都教区とチェジュ教区は姉妹教区の関係を結びました。今年、その交流は20周年を迎えました。この姉妹教区の縁組は、2004年にチェジュ教区で開催された記念すべき第10回を迎えた「日韓司教交流」が実を結び、生まれたものです。日韓司教交流は1996年に始まり、日本と韓国の司教たちが歴史認識を深め、福音宣教の課



2005年6月7日の調印式
 左：大塚喜直司教
 右：カン・ウイル司教

題を共有するために毎年開催している有志の交流会です。姉妹教区縁組の目的は、「初代教会から受け継いだ神の民の交わりを深めること」にあり、これを通じてアジアにおける平和と友好を促進し、福音宣教の使命を共有することを目指しています。両教区は、小さな神の民の群れですが、20年にわたる交流を通じて育まれた絆は、「一致と希望と救いの最も堅実な芽生え」(第二バチカン公会議・教会憲章)へと成長してきました。

2. **チェジュ交流月間**
 京都教区は、毎年6月を「チェジュ交流月間」と定めています。この期間中、主日ミサでは交流促進を目的とした意向を共同祈願に加えて祈り、京都・チェジュ姉妹教区交流委員会の活動を支援する献金が集められます。また、チェジュ教区から司祭をお迎えし、司教座聖堂での主日ミサでは両教区の絆を深める祈りが捧げられます。さらに、「望洋庵」で

3. **チェジュ教区からの司祭派遣**
 この20年間、チェジュ教区との交流を通じて、多くの素晴らしい絆が生まれてきました。特に、チェジュ教区からの司祭の派遣は、京都教区にとって大きな感謝と喜びの源です。2006年以降、デゴン・アンドレアブ・ヨンホ神父、ヨハネチェ・ソンファン神父、ペトロキム・テジョン神父、ペトロホン・ユンハク神父の4名が、それぞれ8年から10年の任期で派遣されました。そして現在は、ペトロソ・ウォンハ神父とラファエルイ・ウォンギョ神父が派遣され、両教区の絆をさらに深めています。
 チェジュ教区は韓国の他教区から司祭の派遣を受けています。そのような背景を考えると、カン名譽司教様やムン司教様による京都教区へのあたたかいご配慮は特筆すべきことであり、京都教区の皆さまにぜひ知っていただきたいと強く思います。



2005年6月7日の
 調印文書

4. 神学生の司牧研修

チェジュ教区の助祭や助祭前の神学生たちは、毎年7月、2〜3人の規模で京都を訪れ、京都教区の「共同宣教司牧」の実態を体験します。この研修を通じて、韓国とは異なる日本の教会の司牧活動に関する知識や視野を広げ、両教区の司祭団の絆をさらに深める役割を果たしています。神学生たちは、異なる文化や習慣

に触れることで、自身の信仰に新たな理解と洞察を得ることができそうです。同時に、京都教区の皆さまにとっても、若い司祭の卵たちと触れ合う機会は大きな刺激となること期待されています。研修した神学生の司祭叙階式に、訪問した小教区の信徒やホームステイ先の家族が参列することは大変感動的で、友情を深める意義深いものとなっています。

5. 中学生広島平和巡礼

今年、戦後80年の節目の年です。日本と韓国とは隣国であり、古代からさまざまな交流がありますが、近代には日本が朝鮮半島の人々に悲しい思いをさせた歴史があります。

京都教区とチェジュ教区が合同で「中学生広島平和巡礼」を行ってきました。巡礼中、8月6日に、原爆ドームや平和記念公園、原爆資料館を訪れ、戦争の悲惨さとその歴史に触れ、被爆者の証言を聴いたり、平和の祈りを捧げたりすることで、参加者たちは平和の大切さを体感し、自分たちに何ができるのかを考えます。

この巡礼は、平和学習にとどまらず、京都教区とチェジュ教区の中学生が友情を育み、異文化理解を進める場でもあります。共同で祈り、学び、交流することで、将来の平和の担い手としての意識を養う実りある経験となっており、韓国と日本、そしてアジアと世界の友好と平和のために奉仕する人間へと成長していく

ことを心から願っています。

6. 「聖母の夜」と聖地巡礼の旅

京都教区では、毎年5月にチェジュ教区の聖地「恵みの丘」で開催される「聖母の夜の集い」に参加する巡礼を行っています。この巡礼は、両教区の信徒同士が交流を深める貴重な機会となっています。参加者は、韓国初の司祭キム・デゴンが中国からの帰路で漂着したことを記念した教会や殉教者の聖地を訪れるほか、小教区を訪問し、現地の信徒と触れ合う時間を持ちます。また、チェジュ島の美しい風景や歴史的な聖地を巡りながら、その魅力を肌で感じることができ

ます。「チェジュ四・三平和公園」訪問では、チェジュ島で起きた歴史的悲劇について学びます。1948年4月3日から1954年9月までの期間に、南朝鮮労働党を中心とした島民への韓国政府および軍の弾圧が続き、民間人を含む3万人以上が犠牲となり、島全体に深い傷を残しました。この悲劇を通じて、韓国植民地統治時代の日本の歴史、冷戦による南北分断、政治的混乱の背景を理解し、平和の重要性を改めて考える貴重な機会となっています。

7. チェジュの農星女子学院と京都ノートルダム女学院の交流

チェジュ教区唯一のカトリック学校であるシンソン女子学院と京都ノートルダム女学院の交流は現在も続いています。

この交流活動では、両校の生徒が互いの文化や言語を学び合い、友情を深めることを目的としています。シンソン女子学院の生徒たちは、日本の学校生活や文化を体験し、京都ノートルダム女学院の生徒たちと共にプロジェクトやイベントに取り組む機会を持ちます。一方、京都ノートルダム女学院の生徒たちは、姉妹校訪問を通じてチェジュ島の歴史的背景や韓国文化を深く理解します。

8. 「希望の巡礼者」としての絆で築く未来

京都教区とチェジュ教区の20年にわたる交流は、信仰と友情の絆を築き上げる素晴らしい成果をもたらしました。東日本大震災や台風、豪雨災害の際にチェジュ教区からいただいた温かいお見舞いは、大きな励みとなりました。そうした思いやりの絆が、京都教区とチェジュ教区の関係をさらに深く、また強固なものにしていると感じます。

2025年の聖年にあたり、わたしたちは「希望の巡礼者」として、次の10年の歩みを進めてまいります。両教区の絆を新しい世代へと引き継ぎ、信仰と平和のメッセージを未来へとつなぎ続けるため、チェジュ教区との交流がさらに豊かで実りあるものとなるよう努めていきます。京都教区の皆さま、これからも、チェジュ教区とともに希望の光を灯し、明るい未来を築いていきましょう。

聖年☆青年の祝祭



チェジュ教区の司教様をお迎えして 青年との交流会 報告
望洋庵 6月8日

大塚司教様と、韓国・チェジュ教区のムン司教様と4名の神父様を望洋庵にお迎えして交流会が行われました。たくさんの青年が参加し、総勢40名以上の方が集まって充実したひと時を過ごしました。

交流会に先立って、皆で晩課の祈りの時間を過ごしました。当日は聖霊降臨の主日にあたり、晩課の中で大塚司教様から青年たちに、聖霊の声をとりあえず聞いてみるという姿勢から一歩踏み出し、聖霊の声に従う気持ちを持って祈ってほしい、とメッセージをいただきました。



晩課での大塚司教様のお話



ムン司教様へ花束のプレゼント

交流会では、青年たちが準備した料理を囲んで団欒の時間を過ごしました。ムン司教様と4名の神父様も青年たちとお話され、日本の青年の声に熱心に耳を傾けておられました。また、青年たちも普段はなかなか知ることのないチェジュや韓国の教会について触れる機会となり、多くの刺激を受けました。

交流会の最後には一日を静かに振り返る時間を持ち、温かな空気に包まれて会を終えました。



交流会の集合写真

短い時間ではありましたが、今回の交流会で大塚司教様、ムン司教様と神父様方をお迎えできたこと、そして交流を通して青年たちにとって、様々なことを考える機会となったことに感謝します。

望洋庵運営委員代表 河原町教会 栗山 透

司祭司牧者研修の聖年企画

園部聖堂への巡礼 — 感謝と祈りに満ちた一日

5月28日

司祭司牧者研修の聖年企画として、丹波教会園部聖堂（京都府南丹市園部町）への巡礼が行われました。園部聖堂は、来年の復活祭をもってその歴史に幕を下ろす予定です。この巡礼は、これまで神様からいただいたすべての恵みに感謝を捧げるとともに、歴代の司牧者の導きと情熱、そして共同体の維持に尽力してこられた信徒の皆様への深い感謝を表す機会となりました。

丹波教会の信徒である岡眞智子様が、園部聖堂の思い出を語ってくださいました。園部町の多くの方々の協力のもとに教会が設立されたこと、献堂式には700人もの人々が集ったこと、そして度重なる園部川の氾濫にも屈せず、72年もの間、聖堂が地域のシンボルとして愛され続けてきたことなどが、心を込めて語られました。チャリティコンサートやバザー、クリスマスツリー、教会学校、キャンプなど、数々の思い出が今も人々の心に生きています。陶器の破片を用いて信徒の手で作られたモザイク、そして復活節の文字が織り込まれた手作りのタペストリーの前で、岡さんの語られる一言一言に耳を傾けていると、まるで聖堂の黄金時代の賑わいがあるように感じられました。



ミサは大塚司教の司式によって厳かに捧げられました。当日は快晴に恵まれ、丁寧に手入れされた庭の緑が青空に美しく映えていました。聖堂に注がれる自然の光と、集った人々の祈りが溶け合い、静けさとあたたかさに包まれた巡礼の一日となりました。

広報委員会担当司祭 菅原友明

春プロジェクト 希望の扉 報告

5月24日(土)～25日(日)

奈良教会をお借りし、春プロジェクトを開催しました。今回の春プロは多くの青年が参加して、様々な国籍の方とも交流することができました。

はじめに、班対抗のジェスチャーポーズゲーム等、室内で楽しむことができるレクリエーションを行った後、分かち合いをしました。分かち合いでは、「扉を開いた経験やそのきっかけ」などについて話し、皆さんの経験をもとに「人生の中で、神さまがそばにいるなと思ったこと」について分かち合いました。この分かち合いで多くのものに気づくことができ、良い学びの場になったと感じています。交流会では共通の話題だけでなく、教会、私生活、趣味など様々な話題に花を咲かせ、より一層青年同士が打ち解ける事ができました。2日目の朝は奈良教会のミサにあずかりました。柳本神父様は、大人だけでなく子ども達にもわかるように絵などを使ってお説教をしてくださいました。ミサ後、青年達の仲が深まっている姿を見て、今回のイベントも大成功を収められたと心の底から思いました。

最後になりましたが、奈良教会の皆様、担当司祭の柳本神父様に心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

長浜教会 菊川ガブリエル



お知らせ

司教

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



教区

正義と平和協議会

第18回戦争と平和写真展

「沖縄・フクシマ・戦争の爪痕」

日時：8月9日⑤ 14:00~20:00
10日⑥ 7:40~16:00

場所：河原町教会ヴィリオンホール

◆講演会：「今を生きる」満州からの引き揚げの記録

日時：8月10日⑥ 14:00

語り部：黒田雅夫さん（満州からの引き揚げ者）

問合せ：正義と平和協議会 075-223-3340
seiheiky@kyoto.catholic.jp



諸団体

都の南蛮寺跡記念ミサ

日時：8月24日⑥ 14:00~16:30
場所：ウィングス京都2階シアタールーム
京都市中京区東洞院通六角下る
司式：ホルヘ・モンテロ神父

(京丹ブロック担当司祭)

14:00 研究発表 15:00 分かち合い
15:30 ミサ 16:30~17:45 巡礼(希望者)

事前申込要 定員30名
問合せ：京都キリシタン研究会
古澤吉次 090-2381-4630

京都カトリック混声合唱団

日時：8月3日⑥ 14:00 聖歌練習
8月23日⑥ 17:30 練習後集會祭儀奉仕

場所：河原町教会聖堂
問合せ：075-951-4283 則武 隆

心のともしび

ラジオ番組案内(全国34局で放送)

8月の主テーマ「正しさと優しさ」

KBS京都 ⑤~⑥ 朝5:55

⑦ 朝5:15

ラジオ関西 ⑤~⑥ 朝5:35

⑦ 朝6:05

毎日放送 ⑤~⑥ 朝5:45

⑦ 朝4:55



信仰教育委員会

青年のための1泊黙想会

日時：8月30日⑥ 17:00~31日⑥ 16:00
場所：望洋庵(西陣教会内)

講師：北村善朗師(京都教区司祭)

テーマ：イエスとの親しさを求めて

対象：青年(18~35歳 高校生不可)

参加費：3,000円

問合せ：メールまたはFAX 075-223-3371
shinko_kyouiku@kyoto.catholic.jp

広報委員会

教区時報10月号の原稿締切日は8月25日⑥です。

下記までご連絡ください。

koho@kyoto.catholic.jp

皆さまのまわりに点訳版「京都教区時報」が必要な方がおられないでしょうか。点訳版「京都教区時報」をご希望の方がおられましたら、カ障連大阪フレンドリー点字部・笠松幸彦さんまでお申込みください。無料でお送りします。Tel・Fax/072-722-0271

「平和を紡ぐ旅 -希望を携えて-」

戦後80年司教団メッセージ

QRコードよりカトリック中央協議会ホームページでお読みください。



日本カトリック司教団

核兵器廃絶宣言2025

QRコードよりカトリック中央協議会ホームページでお読みください。



日本カトリック司教協議会 推薦映画

『長崎 - 閃光の影で -』

戦後80年の夏、一緒に考えてみませんか

8月1日(金)全国公開 劇場情報



1945年・夏—
原爆が落下され、破壊と化した街・長崎。
そこには、負傷者の救護に奔走する若き看護学生がいた。

看護学校の同期であるスミ、アツ子、ミサは休校のため長崎に帰郷してきた。
久しぶりの家族や婚約者の再会を喜ぶ彼女たちの日常に、8月9日11時2分、原爆が落とされる。
一瞬にして変わり果てる街。
未熟ながら看護学生として、人として使命を全うしようとした彼女たちの「戦争」が始まった……

原爆被害者を救護した日本赤十字社の看護師たちが、被爆から35年後にまとめた手記「閃光の影で」を基に、脚本を執筆。
戦争の足音が近づいてくるかのような現代にあって、
彼とは何か、戦争とは何か、人間とは何か、いのちとは何か、信仰とは何かを問いながら、少女たちの勇烈な青春を描く。

日本カトリック司教協議会が、平和を望むすべての皆様・若者の皆様に向けて発表した「戦後80年司教団メッセージ」と「核兵器廃絶宣言」です。この機会にぜひご一読ください。

日本カトリック司教協議会 ● 戦後80年司教団メッセージ

● 核兵器廃絶宣言

※スマートフォンのカメラアプリを起動し、QRコードをカメラの画面に映すと文章やウェブサイトにアクセスできます。

戦争 人間 信仰 とは
「長崎 - 閃光の影で -」
公式サイト